



GAUDETE

カトリック広島司教区平和の使徒推進本部

2017-2019年度広島教区年間テーマ

チャレンジ 新しい福音宣教 わたしを
— 教会へのチャレンジ — お使いください

開 か れ た 教 会 の し る し

2月24日、山口島根地区での恒例の平和アピールは、防府教会において、「開かれた教会へ～対日外国人の隣人となる」というテーマで、これから最重要課題の一つとなる滞日外国人の人々を迎え、どう支え、共に生きていくかということについてゲストの話を聞き話し合いました。小教区のニーズに応えたテーマであったため、普段よりも多く100名近くの方々が集いました。大阪教区の社会活動センター・シナピスからビスカルド篤子さん、北九州の外国人技能実習生権利ネットワークから岩本光弘さんをお呼びする豪華二本立てです。

ビスカルドさんは、あらゆる手を尽くそうとしても現実には難しく、関わった外国人のすべての人を助けまることができず、空港のゲートまで見届けることしかできないこともあるという現実もわかちあわれました。お兄様であられる松浦悟郎司教様の言葉を引用しながら、成功よりも不成功の方が多い、それでも関わった人から「あなたに会えてよかった」と言葉をかけてもらったときの喜び、私たちが滞日外国人の人々に対してそのような存在になっていくことの大切さを、笑いの渦の最後には涙まじりに話してくれました。

岩本さんは、ご自身の関わるネットワークによって、技能実習生を搾取の状況から救い出した例を挙げながら、自分は日本語しか話せないとしても、出向いて行って、誠意を持って「大丈夫かい、困ったことはないかい？」と「優しい言葉」で話しかければ、必ず伝わるということを教えてくれました。

私が所属する下関協働体からも10名を越える仲間たちが参加しました。一人一人が個々に何かをしようとしても限界がある。踏み出すことへの不安もある。しかし、共に何ができるのかを考えて、共同体として取り組んでいくなれば、きっと何かができるだろう。二人の話に励まされながら、私たちが近場の仲間たちと肩を組みながら滞日外国人たちを抱擁していくように出向いていくように奮い立たされる時間でした。

広島教区が開かれた教会のしるしとなっていきますように。

(平和の使徒推進本部アドバイザー 中井淳神父)

福 音 の 喜 び 方



喜ぶことはまさに神の恵みそのもの、我が身を奮い立たせて自分に強制できることではなく、ましてや人にあれこれ指図して喜ぶ

ように仕向けることではない。プロの芸人たちも新奇なアイデアを競うようにして、お客さんを何とか「笑わせ」ようと四苦八苦するばかり。しかしフランシスコ教皇は2013年に全世界のキリスト者に呼びかけ、イエスの福音からあふれ出る喜びを生きるように勧め励ましている。私たちキリスト者はもっぱら、真面目で敬虔で善良

な人柄であると認められ、自分なりにそうなるよう日々励んでいるかもしれない。しかし私たちは、現代世界にインパクトを与え続けている存在なのかと問うと、残念ながら答えはかなり怪しくなる。むしろ骨董品のような過去の遺物と文化にすがりついたり、あるいは伝統的な式典や祭儀の繰り返しに満足したりと、現実世界ではパ

ワーに乏しく頼りないクライがある。だから若い世代の要求や必要には没交渉・無関心のまま、年齢よりも老成して古き良き時代の郷愁や追憶にふけて、おみこしが上がらない。

教皇フランシスコは登位の初めから倦むことも疲れることもなく、大胆にイエスによる福音の意味を教え導いている。日本の状況を見ると、自分も含めて最近の私たちの顔つきは少し陰しくなったのではないかな。ケンのある顔つき、いかにも憂うつな表情、攻撃的な物腰、無愛想な対応などなど、すっかり人間嫌いや人間への不信感が内外に溢れている。おそらく恐ろしい犯罪の増加や、オレオレ詐欺の横行などもその原因なのかもしれない。とにかくなかなか腰を上げようとしない私たちキリスト者に向かって教皇は呼びかける、勇気を出して敢えて外に出向きなさいと。私たちがしぶしぶ新たな関わりを求めて出かけていく相手は、およそ喜びとは縁の薄い人々かもしれない。神に依るといふ派遣・イエスの福音が求める奉仕に、いったい誰が応えることができるのだろうか。恵みとして神が与えてくださる福音の喜びを自ら生き、また証しするために私たちは何を為すべきなのか。内向きの姿勢から、どのように転換すればよいのか。

失敗を恐れず、まず信頼の念をもって出かける事、人ごみを厭わず無駄骨折りを恐れず、人と人との関わり・煩いの中に勇ましく先ずび込むことが求められる。それも聖人や義人として、人々の模範になるためではない。とくとくと教義を説き聞かせることではない。むしろ自らの弱さと愚かしさ、また無知と罪深さを深く認めながら、敢えて波風を厭わない蛮勇がここに求められる。人と人との生身の関わりを通じてこそ、大きなイエスが秘かに行われている救いの業に気づき、また小さなイエスたちが無意識のままに、十字架の孤独と苦難に深く結ばれ贖いの業に固く結ばれている事実を有り難く認めることになる。自分のなかに年期をかけて積み蓄えた殻や垢やツミトガは告解室の孤独によってよりも、生身の他人との出会いや関わりや衝突を通して癒され越えていけるのではあるまいか。

(三篠教会 中村健三神父)

「教会へのチャレンジ」のヒント

福音の喜び (第一章)

この春より教皇フランシスコの使徒的勧告「福音の喜び」の抜粋を紹介しています。

今月は第一章の最後の部分です。

IV 人間の限界の中に具現化する宣教

(中略)

V 開かれた母の心

46 「出向いて行く」教会とは、門の開かれた教会です。隅に追いやられている人の

もとへと出向いて行くことは、やみくもに世界を駆けずり回ることはありません。足を止める、他者に目を注ぎ耳を傾けるために心配事を脇に置く、道ばたに倒れたままにされた人に寄り添うために急用を断念する、(中略)時にわたしたちは、帰ってきた息子がすぐ入れるようにと門を開けたままにする、放蕩息子の父のようであらねばなりません。

47 教会は、つねに開かれた父の家であるよう招かれています。開かれていることの具体的なしるしの一つは、どの教会でも門を開いたままにしておくことです。そうすれば、聖霊に促されて神を探し求める人が、冷た

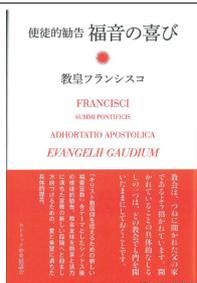
く閉ざされた門にぶつかることはないでしょう。(中略)秘跡の門は、いかなる理由があっても閉ざされるべきではありません。(中略)聖体は秘跡の頂点ですが、完璧な人のための褒美ではなく、弱い者のための良質な薬であり栄養です。(後略)。

48 (前略)だれを優先すべきでしょうか。福音書の中に、非常に明確な指針が示されています。友達や近隣の富裕者ではなく、むしろ貧しい人や病人です。(中略)今日も、そしていつも、「貧しい人々は優先的に福音の対象です」。見返りを求めることなく福音を彼らに伝えることは、イエスによってもたらされた

王国のしるしです。(後略)。

49 出向いて行きましょ
う。すべての人にイエス
の命を差し出すために出向いて行
きましよう。(中略) わたしは、
出て行ったことで事故に遭い、傷
を負い、汚れた教会のほうが好き
です。閉じこもり、自分の安全地
帯にしがみつくと気楽さゆえにやん
だ教会よりも好きです。中心であ
ろうと心配ばかりしている教会、
強迫観念や手順に縛られ、閉じた
まま死んでしまう教会は望みませ
ん。わたしたちが憂慮し、良心の
とがめを感じるべきは、多くの兄
弟姉妹が、イエス・キリストとの
友情がもたらす力、光、慰めを得
られず、また自分を迎えてくれる
信仰共同体もなく、人生の意味や
目的を見いだせずには生きていると
いう事実に対してです。(中略)
外には大勢の飢えた人がいます。
そして、イエスは倦むことなく、
たえず教えておられるのです。「あ
なたがたが彼らに食べ物を与えな
さい」(マルコ 6・37)。

教皇フランシスコ使徒的勧告
「福音の喜び」(カトリック中央協議会)



主 な 典 礼 暦

4月14日	受難の主日(枝の主日)
4月17日	聖水曜日・聖香油ミサ
4月18日	聖木曜日・ 主の晩さんの夕べのミサ
4月19日	聖金曜日・主の受難
4月20日	聖土曜日 復活の聖なる徹夜祭
4月21日	復活の主日
4月28日	復活節第2主日・ 神のいつくしみの主日

<典礼一口メモ>

過越の3日間

18 キリストは人間にアがない
をもたらし、神に完全な栄光を帰
するわざを、とりわけその過越の
神秘によって成就され、ご自分の
死をもってわたしたちの死を打ち
砕き、復活をもってわたしたちに
いのちをお与えになった。このた
め、主の受難と復活からなる過越
の聖なる3日間は、全典礼暦年
の頂点として輝きを放っている。
したがって、一週間の中で主日が
占めている最高位を、復活の祭日
は典礼暦年の中で占めているわけ
である。(典礼暦年と典礼暦に関する一般原則)



Photo by 平和の使徒推進本部

ボランティアアン ケートについて

皆様のご協力により、現在25
の小教区から回答をいただいて、
データをまとめております。

病人訪問、日本語教室、コーラ
スグループ、障がい者支援、子ど
も食堂、被災地支援などなど様々
なグループの報告が届いていま
す。

発表までには余裕がありますの
で、まだご回答を受け付けており
ます。用紙が必要な方は平和の使
徒推進本部までご連絡ください。

聖書書き写し、頑張っ てます～東広島教会

東広島では20人弱で、新約聖
書の書き写しにチャレンジしてい
ます。一人が原稿用紙12枚
分を担当し、昨年11月から1年
間の期限を設けてゆっくりとりく
んでいます。すでに7、8人は分
担を終えています。おかげさまで
聖書に向き合う時間をいただい
ています。

新約聖書書き写し用の原稿用
紙、1セット250枚を準備してお
ります。ご希望の方はご連絡くだ
さい。